

田原城の石垣 (三)

さて、再び桜門の前に立ってみましょう。再興された桜門の門扉の内側をのぞくと、進行方向に立ち塞ぐように二の丸櫓の石垣が目に入ります。桜門の石垣より高く積まれています。また、石垣を安定させるため、角は横長の石が互い違いに積まれています。



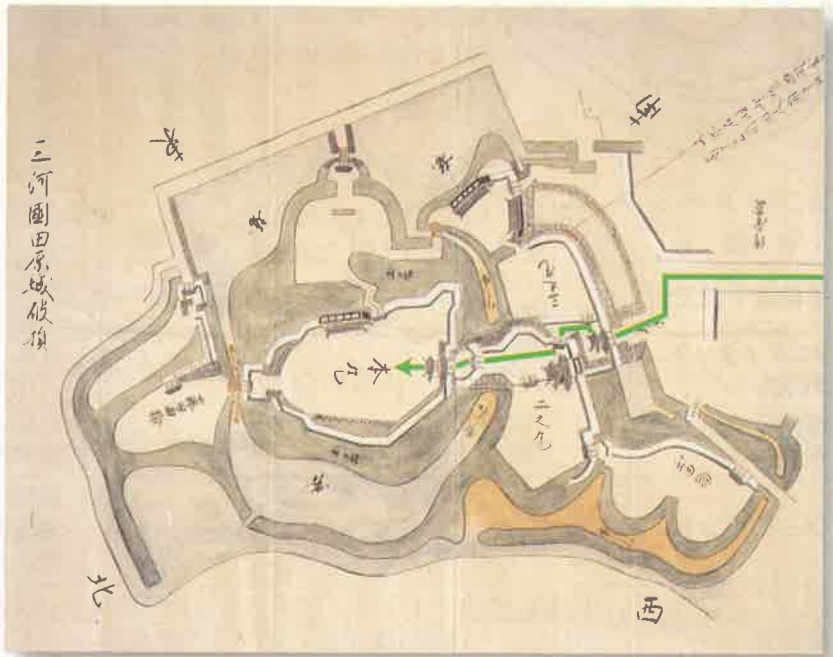
●桜門から見える二の丸櫓の石垣

桜門と二の丸櫓の配置は、石垣の迫力を誇示するとともに、桜門を制

圧した敵が入城してきた際、二の丸櫓から弓矢や鉄砲でねらい撃ちできるように考えられています。

江戸時代の田原城の絵図を見てみましょう。現在、巴江神社の境内となった本丸へは、ほぼ真つすぐに入る事が可能です。が、絵図によると、本丸までは何回も曲り、門をくぐらなければ到達できません。これは、人の動線を伸ばすことにより、敵の進行を遅らす目的のほか、登城する人々に緊張感を与える効果があったことでしょう。

城の守りを強化するため、門の内側あるいは外側には、絵図のように土塁、石垣、塀などで区画した「枳形」と呼ばれる区画を設けます。また、石垣、堀とともに、この区画がない城は「格」が低いものと認識されているようです。



●明和2年(1765)の田原城絵図 ※ ← 本丸への道筋(加筆)

田原城は、我々が思い浮かべる典型的な城ではありません。中世に築かれた城をそのまま引き継いだため、地形、規模など数多くの制約を余儀なくされました。また、限られた財政状況の中、さまざまな工夫を凝らし、小さいながらも近世の城郭に必要な要素を取り入れられました。これら、先人の知恵と努力に敬意を表さずにはられません。(増山)

▽田原町博物館 ☎22局1720

今月の表紙 COVER STORY

私たちの身の回りには、さまざまな「色」があふれています。人や物の性格を表すときに使う「カラー」もその一つ▼ところで、絵を描いたり洋服をコーディネートしたりするとき、色の組み合わせで悩んだ経験ありませんか？一つ一つがどんなにきれいな「色」であっても、並べてしまうと個性が強すぎて、お互いの良さを打ち消してしまうこともしばしば。かと思えば、一見アンバランスと思えた組み合わせが、意外としつくりくるなんてことも▼お互いが相手の「カラー」を尊重し、引き立てることで、自分自身も一層輝きを増す。そんな「色」の関係が理想ですね▼2003年。今年あなたは何色の夢を描きますか？(写真・南部保育園のももぐみさん。慣れないモデルを一生懸命がんばりました。)

【人口と世帯数】

総人口	36,896人		
男性	18,833人		
女性	18,063人		
世帯数	11,569世帯		
出生	36人	死亡	24人
転入	74人	転出	67人
増減	19人		

(平成14年12月1日現在・増減は11月中)

【行政面積】 82.86 km²

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)